

国立美術館の情報発信

水谷長志

独立行政法人国立美術館情報企画室主任研究員

仕事と生活のバランスのとれたライフスタイルを重視するワーク・ライフ・バランスが推奨されて久しいですが、美術の世界では昔からライフ・アンド・ワーク (life and work) に注目する、つまり人 (人生) と作品を並べて鑑賞・玩味することがだいにじにされてきました。

日本人のゴッホ好きもあの劇的な人生とその作品とのかかわり、連続ということにあるようです。特にゴッホが残した膨大かつ魂の告白文学ともいべき手紙は、木村莊八や裕伊の助などの日本の美術家も加わり、重ねて翻訳がなされてきました。2009年には、アムステルダム国立美術館は、2180頁、およそ15kg、6巻の決定版ゴッホ書簡集を刊行しました。

ゴッホ自筆の手紙のように世に1点しかない手稿や歴史的資料 (文書) は図書館に保管されます。書簡集として複製され出版された本は図書館が収集します。ゴッホの作品は美術館に収

蔵されます。もしゴッホのライフ・アンド・ワークの全体を知り、研究するのであれば、その作品はもとより出版された図書や文書のすべてにわたってアクセスすることが求められます。

これまでは、作品は美術館 (M) に、本は図書館 (L) に、文書はアーカイブ (A) にそれぞれ別々に置かれていました。そしてMLAは、互いの存在を知らながらも積極的に連携することがありませんでした。

インターネットでは、MLAのそれぞれが抱えているものをデジタル情報として公開することが進んでいます。ここに来て、あたかもMLAが一つのお蔵の中にあるかのよう



図2 国立美術館版「想-IMAGINE」
http://imagine.artmuseums.go.jp/index.jspで「ゴッホ」を捜す

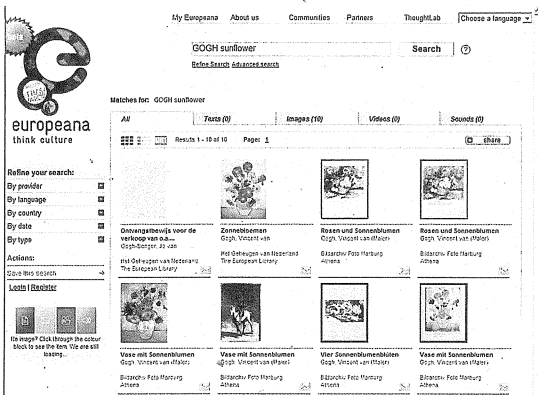


図3 ヨーロピアーナ
http://www.europeana.eu/portal/index.htmlで「GOGH sunflower」を捜す

いままで、異なる館にあつてアクセスが難しかった多種多様な作品や本や書簡などが、MLAの館の壁を越えて連携しながら、みなさまのお手もとに届く日が、少しずつ見え始めているのです。

※1 水谷長志編著『MLA連携の現状・課題・将来』勉誠出版、2010年
※2 http://portandgojp/
※3 http://imagine.artmuseums.go.jp/index.jsp
※4 http://www.europeana.eu/portal/index.html

に、館の壁を越えてその情報を検索できる、MLAが連携するシステムが現れるようになりました。MLAの関係者が集って、連携のための研究や議論が大変盛んに行われるようになり、国内でもシンポジウムが開かれ、報告書が刊行されています (※1)。

現在、日本の成果の代表格は国立国会図書館のPORTA (図1) ※2です。国立美術館版「想-IMAGINE」(図2) ※3という連携のためのシステムも公開されています。ヨーロッパで広く展開しているのがヨーロッパアーナ (図3) ※4です。



図1 国立国会図書館 PORTA
http://porta.ndl.go.jp/で「GOGH」を捜す